

卷頭言

病院図書室の役割

豊橋市民病院院長 瀬川 昂生

ある病院の図書館の充足度は剖検率およびカルテ管理の充足度とともにその病院の医療水準を推し量る目安のひとつであると以前から言われてきた。現在ではそのほかの尺度も加えられようが、図書館の充実が病院の機能に必須のものであることには今でも変わりがない。

図書館の充足度は何を以て言うかと問われれば先ず挙げられるには、蔵書数、定期購読している雑誌の種類であるが、その他にそれらにどれだけ整理が行き届いているかがあると考える。

現在ではパソコンを利用した文献検索が容易に出来るようになり、かつまた図書館の相互利用貸借の仕組みが充実してきたので必要な文献を取り寄せるのが容易に出来るようにはなったものの、最新の文献は手元において必要なときにすぐに見たいものである。

医学、医療の専門分化が進み、多様化してくるとともに学会の数が多くなり、それに伴って発行される医学雑誌の種類も益々多くなっている。そのために、病院で購入するジャーナルの数も欧文誌、和文誌を問わず増加してきた。

現在、私たちの病院では欧文誌は112種類、和文誌は85種類を毎年定期購読している。購入する雑誌を図書委員会で審議して毎年決め

ているが、これらの中には歴史があつて多くの人に読まれていて、だれでもが知っている雑誌のほかに、極めて専門的なものも含まれている。毎年購入する雑誌の数が多くなっているが、しばらくはこの傾向が続くものと考えられる。極めて特殊な雑誌の場合にはそれを希望した人がすでに転勤してしまい誰も読む者のないまま購入している場合もありうる。購入雑誌の継続性も尊重されねばならないが、見直しも厳しくなければならぬと考える。